



## アラームの管理

---



(注)

「単方向パス スイッチ型リング」および「UPSR」という用語がシスコの資料で使われることがあります。これらの用語が示すのは、単方向パス スイッチ型リング設定で Cisco ONS 15xxx 製品を使用するというのではなく、「パス保護メッシュ ネットワーク」および「PPMN」が一般的にシスコのパス保護機能を指すように、これらの用語もトポロジ ネットワーク設定において使用されず。シスコは特定のトポロジ ネットワーク設定でのこのパス保護機能の使用を推奨していません。

この章では、Cisco ONS 15454 でアラームと状態を表示および管理するための手順について説明します。

Cisco Transport Controller (CTC) は、Cisco ONS 15454 および Optical Networking System (ONS; 光ネットワークシステム) ネットワークによって生成されたアラームを検出し報告します。CTC を使用すると、カード、ノード、またはネットワーク レベルのアラームのモニタリングと管理を行うことができます。また、LCD 前面パネルでもアラーム カウントを確認できます。



(注)

特に指定のないかぎり、「ONS 15454」は ANSI および ETSI のシェルフ アセンブリを意味します。

## 作業の概要

ここでは、主要手順 (Non-Trouble Procedure [NTP]) について説明します。具体的な作業については、詳細手順 (Detail-Level Procedure [DLP]) を参照してください。

1. [NTP-G63 既存のプロビジョニングの文書化 \(p.9-3\)](#) — ノード データを印刷またはエクスポートする場合は、この手順を実行します。
2. [NTP-G64 アラーム、履歴、イベント、および状態の表示 \(p.9-8\)](#) — ノードで発生するアラームと状態、およびアラームと状態のメッセージの完全な履歴を表示する場合は、必要に応じてこの手順を実行します。
3. [NTP-G65 表示からのクリアされたアラームの削除 \(p.9-16\)](#) — クリアされたアラーム情報を削除する場合は、必要に応じてこの手順を実行します。
4. [NTP-G66 アラームの影響を受ける回線の表示 \(p.9-18\)](#) — 特定のアラームまたは状態によって影響を受ける回線を見つける場合は、必要に応じてこの手順を実行します。
5. [NTP-G67 ノード、スロット、またはポートの LCD のアラーム カウントの表示 \(p.9-19\)](#) — スロットまたはポートに対して発生したアラームの統計的なカウントを表示する場合は、必要に応じてこの手順を実行します。
6. [NTP-G68 アラーム重大度プロファイルの作成、ダウンロード、および割り当て \(p.9-21\)](#) — 特定のアラームについてデフォルトの重大度を変更し、ポート、カード、またはノードに新しい重大度を割り当て、アラーム プロファイルを削除する場合は、必要に応じてこの手順を実行します。
7. [NTP-G69 アラーム重大度フィルタリングのイネーブル化、変更、またはディセーブル化 \(p.9-31\)](#) — Conditions、Alarms、または History 画面のアラームの重大度のフィルタリングをノード レベルまたはネットワーク レベルでイネーブル化、ディセーブル化、あるいは変更する場合は、必要に応じてこの手順を実行します。
8. [NTP-G70 アラームの抑制またはアラーム抑制の中止 \(p.9-36\)](#) — ポート、カード、またはノード レベルで報告されたアラームを抑制し、抑制コマンドをディセーブルにして通常のアラーム報告を再開する場合は、必要に応じてこの手順を実行します。
9. [NTP-G72 AIC-I カードの外部アラームおよび外部制御のプロビジョニング \(p.9-40\)](#) — Alarm Interface Controller-International (AIC-I) カードで外部アラームと外部制御をプロビジョニングする場合は、必要に応じてこの手順を実行します。

## NTP-G63 既存のプロビジョニングの文書化

目的	既存のプロビジョニングを文書化する目的で、カード、ノード、またはネットワーク CTC 情報を印刷またはエクスポートするには、この手順を使用します。情報を詳細なテキスト ファイルとして他のアプリケーションにエクスポートできます。この手順は、ネットワーク レコードの保存やトラブルシューティングに便利です。
ツール / 機器	直接接続またはネットワーク接続によって CTC コンピュータに接続されているプリンタ
事前準備手順	<a href="#">第3章「ノードのターンアップ」</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	検索以上のレベル

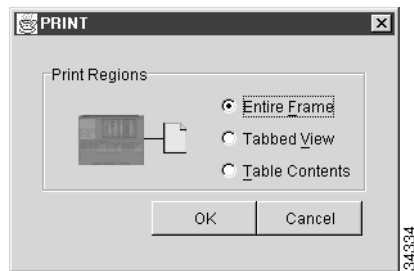
- 
- ステップ 1** データを印刷またはエクスポートするノードで「[DLP-G46 CTC へのログイン](#)」(p.2-29) の作業を行います。すでにログインしている場合は、[ステップ 2](#) に進みます。
- ステップ 2** 必要に応じて「[DLP-G113 CTC データの印刷](#)」(p.9-3) の作業を行います。
- ステップ 3** 必要に応じて、「[DLP-G114 CTC データのエクスポート](#)」(p.9-5) の作業を行います。
- 終了：この手順は、これで完了です。
- 

## DLP-G113 CTC データの印刷

目的	この作業では、Windows でプロビジョニングされたプリンタで、CTC カード、ノード、またはネットワーク データをグラフ形式または表形式で印刷します。
ツール / 機器	直接接続またはネットワーク接続によって CTC コンピュータに接続されているプリンタ
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン</a> (p.2-29)
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	検索以上のレベル

- 
- ステップ 1** 印刷対象の情報を含むタブ (および存在する場合はサブタブ) をクリックします。たとえば、Alarms ウィンドウのデータを印刷するには **Alarms** タブをクリックします。
- 印刷操作はすべてのネットワーク、ノード、およびカード ビュー ウィンドウでイネーブルになっています。
- ステップ 2** **File** メニューから **Print** を選択します。Print ダイアログボックスが表示されます (図 9-1)。

図 9-1 印刷対象の CTC データの選択



**ステップ 3** Print ダイアログ ボックスで、次の印刷オプションをクリックします。

- Entire Frame — カード、ノード、またはネットワークのグラフィック表示を含め、CTC ウィンドウ全体を印刷します。このオプションはすべてのウィンドウで使用可能です。
- Tabbed View — タブおよびデータを含む、CTC ウィンドウの下半分を印刷します。印刷結果には、選択したタブ（一番上）とタブ ウィンドウ内の表示データが出力されます。たとえば、History ウィンドウの Tabbed View を印刷する場合、ウィンドウに表示される履歴項目だけが印刷されます。このオプションはすべてのウィンドウで使用可能です。
- Table Contents — シェルフ、カード、またはタブのグラフィック表現なしで、CTC データを表形式で印刷します。このオプションは、次を除くすべてのウィンドウに適用されます。
  - ノード ビュー（シングルシェルフ モード）またはマルチシェルフ ビュー（マルチシェルフ モード）の Provisioning > General > General、Multishelf Config、および Power Monitor ウィンドウ
  - ノード ビュー（シングルシェルフ モード）またはマルチシェルフ ビュー（マルチシェルフ モード）の Provisioning > Network > General ウィンドウ
  - ノード ビュー（シングルシェルフ モード）またはマルチシェルフ ビュー（マルチシェルフ モード）の Provisioning > Security > Policy、Access、Data Comm、および Legal Disclaimer ウィンドウ
  - ノード ビュー（シングルシェルフ モード）またはマルチシェルフ ビュー（マルチシェルフ モード）の Provisioning > SNMP ウィンドウ
  - ノード ビュー（シングルシェルフ モード）またはシェルフ ビュー（マルチシェルフ モード）の Provisioning > Timing > General および BITS Facilities ウィンドウ
  - ノード ビュー（シングルシェルフ モード）またはマルチシェルフ ビュー（マルチシェルフ モード）の Provisioning > OSI > Main Setup ウィンドウ
  - ノード ビュー（シングルシェルフ モード）またはマルチシェルフ ビュー（マルチシェルフ モード）の Provisioning > OSI > TARP > Config ウィンドウ
  - ノード ビュー（シングルシェルフ モード）またはマルチシェルフ ビュー（マルチシェルフ モード）の Provisioning > Comm Channels > LMP > General ウィンドウ
  - ノード ビュー（シングルシェルフ モード）またはマルチシェルフ ビュー（マルチシェルフ モード）の Provisioning > WDM-ANS > Node Setup ウィンドウ
  - ノード ビュー（シングルシェルフ モード）またはシェルフ ビュー（マルチシェルフ モード）の Maintenance > Overhead XConnect ウィンドウ
  - ノード ビュー（シングルシェルフ モード）またはマルチシェルフ ビュー（マルチシェルフ モード）の Maintenance > Database ウィンドウ
  - ノード ビュー（シングルシェルフ モード）、マルチシェルフ ビュー（マルチシェルフ モード）、またはシェルフ ビュー（マルチシェルフ モード）の Maintenance > Diagnostic ウィンドウ
  - ノード ビュー（シングルシェルフ モード）またはシェルフ ビュー（マルチシェルフ モード）の Maintenance > Protection ウィンドウ

- ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) の Maintenance > Timing > Source ウィンドウ
- ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) の Maintenance > DWDM > ROADM Power Monitoring ウィンドウ

Table Contents オプションは、テーブルに含まれているすべてのデータとテーブルのカラムの見出しを印刷します。たとえば、History ウィンドウの Table Contents ビューを印刷する場合、ウィンドウに表示されるかどうかにかかわらず、テーブル内のすべてのデータが印刷されます。



**ヒント** Tabbed View オプションを使用して印刷すると、出力結果がネットワーク、ノード、またはカードのどのビューに適用されるのかを区別しにくい場合があります。どのビューであるかを判別するには、出力のタブを比較します。ネットワーク ビューには Inventory タブまたは Performance タブが含まれていないこと以外、ネットワーク、ノード、およびカードの各ビューはまったく同じです。

**ステップ 4** [OK] をクリックします。

**ステップ 5** Windows Print ダイアログ ボックスで、プリンタをクリックし、[OK] をクリックします。

**ステップ 6** 印刷するウィンドウごとに、この作業を繰り返します。

**ステップ 7** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## DLP-G114 CTC データのエクスポート

目的	この作業では、テキスト エディタ、ワープロ、スプレッドシート、データベース管理、または Web ブラウザの各アプリケーションでデータを表示または編集するために、CTC テーブル データを詳細なテキストとしてエクスポートします。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	検索以上のレベル

**ステップ 1** エクスポートする情報を含むタブをクリックします (Alarms タブまたは Circuits タブなど)。

**ステップ 2** 回線の詳細情報をエクスポートする場合は、次の手順を実行します。

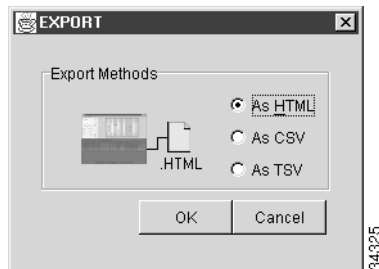
- Circuits ウィンドウで回線を選択して **Edit** をクリックし、それを Edit Circuits ウィンドウで開きます。
- Edit Circuit ウィンドウで、Drops、Path Protection/SNCP Selectors、Path Protection/SNCP Switch Counts、State、または Merge のいずれかのタブを選択します。



**(注)** Edit をクリックしたときに表示されるタブは、ご使用の設定に応じて、上記と異なる場合もあります。

**ステップ 3** File メニューで **Export** を選択します。Export ダイアログボックスが表示されます (図 9-2)。

**図 9-2** エクスポート対象の CTC データの選択



**ステップ 4** Export ダイアログ ボックスで、次のデータ形式をクリックします。

- **As HTML** — グラフィックなしの単純な HTML テーブル ファイルとしてデータを保存します。このファイルは、Netscape Navigator、Microsoft Internet Explorer、またはその他の HTML ファイルを開くことのできるアプリケーションで表示および編集できます。
- **As CSV** — CTC テーブルを Comma Separated Values (CSV; カンマ区切り形式) として保存します。このオプションは、ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) の Maintenance > Timing > Report ウィンドウには適用されません。
- **As TSV** — CTC テーブルを Tab Separated Value (TSV) として保存します。

**ステップ 5** テキスト エディタまたはワープロ アプリケーションでファイルを開く場合、その手順はさまざまです。通常は、File > Open コマンドを使用して CTC データを表示するか、ファイル名をダブルクリックして「メモ帳」などのアプリケーションを選択します。

テキスト エディタおよびワープロ アプリケーションは、カンマまたはタブ セパレータを含め、エクスポートされるとおりにデータをフォーマットします。データ ファイルを開くすべてのアプリケーションで、データをフォーマットできます。

**ステップ 6** スプレッドシートおよびデータベース管理アプリケーションでファイルを開く場合も、その手順はさまざまです。通常、アプリケーションを起動して、File > Import を選択してから、区切り形式のファイルを選択して、セル単位でデータをフォーマットします。

スプレッドシートおよびデータベース管理プログラムでは、エクスポートされたデータを管理することもできます。



**(注)** エクスポートされたファイルは CTC では開けません。

エクスポート操作は、次を除くすべての表形式のデータに適用されます。

- ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはマルチシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) の Provisioning > General > General、Multishelf Config、および Power Monitor ウィンドウ
- ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはマルチシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) の Provisioning > Network > General ウィンドウ
- ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはマルチシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) の Provisioning > Security > Policy、Access、Data Comm、および Legal Disclaimer ウィンドウ
- Provisioning > SNMP ウィンドウ

- ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) の Provisioning > Timing > General および BITS Facilities ウィンドウ
- ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはマルチシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) の Provisioning > OSI > Main Setup ウィンドウ
- ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはマルチシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) の Provisioning > OSI > TARP > Config ウィンドウ
- ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはマルチシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) の Provisioning > WDM-ANS > Node Setup ウィンドウ
- ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはマルチシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) の Provisioning > Comm Channels > LMP > General ウィンドウ
- ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) の Maintenance > Overhead XConnect ウィンドウ
- ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはマルチシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) の Maintenance > Database ウィンドウ
- ノード ビュー (シングルシェルフ モード)、マルチシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード)、またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) の Maintenance > Diagnostic ウィンドウ
- ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) の Maintenance > Protection ウィンドウ
- ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) の Maintenance > Timing > Source ウィンドウ
- ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはマルチシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) の Maintenance > DWDM > ROADM Power Monitoring ウィンドウ (ETSI のみ)

**ステップ 7** [OK] をクリックします。

**ステップ 8** Save ダイアログ ボックスで、次のいずれかの形式を使用して File name フィールドに名前を入力します。

- *filename.html* : HTML ファイルの場合
- *filename.csv* : CSV ファイルの場合
- *filename.tsv* : TSV ファイルの場合

**ステップ 9** ファイルの保存先のディレクトリにナビゲートします。

**ステップ 10** Save をクリックします。

**ステップ 11** エクスポートするウィンドウごとに、この作業を繰り返します。

**ステップ 12** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## NTP-G64 アラーム、履歴、イベント、および状態の表示

目的	カード、ノード、またはネットワークの現在あるいは履歴のアラームおよび状態を表示するには、この手順を実行します。この情報は、ハードウェアおよびソフトウェアのイベントをモニタし、トラブルシューティングするのに役立ちます。
ツール/機器	なし
事前準備手順	第2章「PC との接続と GUI へのログイン」
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

- 
- ステップ 1** 「DLP-G46 CTC へのログイン」(p.2-29) の作業を行います。すでにログインしている場合は、ステップ 2 に進みます。
- ステップ 2** 必要に応じて「DLP-G115 アラームの表示」(p.9-8) の作業を行います。
- ステップ 3** 必要に応じて「DLP-G116 アラームまたはイベント履歴の表示」(p.9-10) の作業を行います。
- ステップ 4** 必要に応じて「DLP-G117 アラーム履歴のセッション エントリ最大数の変更」(p.9-12) の作業を行います。
- ステップ 5** 必要に応じて「DLP-G118 時間帯を使用したアラームと状態の表示」(p.9-13) の作業を行います。
- ステップ 6** 必要に応じて「DLP-G119 アラームの同期化」(p.9-14) の作業を行います。
- ステップ 7** 必要に応じて「DLP-G120 状態の表示」(p.9-14) の作業を行います。
- 終了：この手順は、これで完了です。
- 

### DLP-G115 アラームの表示

目的	この作業を実行して、カード、ノード、またはネットワークの現在のアラームを表示します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

- 
- ステップ 1** カード、ノード、またはネットワーク ビューでは、**Alarms** タブをクリックして、そのカード、ノード、またはネットワークのアラームを表示します。
- 表 9-1 に、Alarms ウィンドウのカラムを示します。



表 9-1 アラーム カラムの説明

カラム	記録情報
Num	元のアラームのシーケンス番号
Ref	元のアラームの参照番号
New	新しいアラームを示します。このステータスを変更するには、Synchronize ボタンまたは Delete Cleared Alarms ボタンのいずれかをクリックします。
日付	アラームの日時
Node	(ネットワーク ビュー専用) アラームが発生したノードの名前
Shelf	(マルチシェルフ モード、マルチシェルフ ビュー専用) アラームが発生したシェルフの数
Object	アラームが発生したオブジェクトの TL1 Access Identifier (AID; アクセス ID)。STSmon または VTmon の場合、モニタ対象の Synchronous Transport Signal (STS; 同期転送信号) または Virtual Tributary (VT; 仮想トリビュタリ)
Eqpt Type	(カードでアラームが発生した場合) このスロットのカードタイプ
Slot	(カードでアラームが発生した場合) アラームが発生したスロット。ネットワークおよびノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ ビュー) でのみ表示
Port	(カードでアラームが発生した場合) アラームが発生したポート。STSTerm および VTterm の場合、このポートは組になるアップストリーム カードを参照します。
Path Width	アラーム パスに含まれる STS の数。この情報は、アラーム オブジェクトの表記を補完します (『Cisco ONS 15454 DWDM Troubleshooting Guide』参照)。
Sev	重大度: CR (クリティカル)、MJ (メジャー) MN (マイナー)、NA (アラームなし)、NR (報告なし)
ST	ステータス: R (発生)、C (クリア)、T (過渡)
SA	チェックが付けられると、サービスに影響するアラームがあることを示します。
Cond	エラー メッセージ / アラーム名。これらの名前は、『Cisco ONS 15454 Troubleshooting DWDM Guide』でアルファベット順に定義されています。
内容	アラームの説明

表 9-2 に、アラームと状態の重大度の色分けを示します。

表 9-2 アラームと状態の重大度の色分け

色	内容
レッド	クリティカル (CR) アラームが発生
オレンジ	メジャー (MJ) アラームが発生
イエロー	マイナー (MN) アラームが発生
マゼンタ (ピンク)	アラームなし (NA) 状態が発生
ブルー	報告なし (NR) 状態が発生
ホワイト	クリア済み (C) アラームまたは状態

**ステップ 2** アラームが存在する場合は、『Cisco ONS 15454 DWDM Troubleshooting Guide』に記載されている説明とトラブルシューティングの手順を参照してください。

**ステップ3** 元の手順（NTP）に戻ります。

## DLP-G116 アラームまたはイベント履歴の表示

目的	カード、ノード、またはネットワーク レベルの、クリア済み、およびクリアされていない ONS 15454 アラーム メッセージを表示するには、この作業を行います。この作業は、アラームによって示されている、設定、トラフィック、または接続の問題をトラブルシューティングするのに役立ちます。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	検索以上のレベル

**ステップ1** ネットワーク、ノード（シングルシェルフ モード）、マルチシェルフ（マルチシェルフ モード）、シェルフ（マルチシェルフ モード）、またはカードのいずれのレベルでアラーム メッセージ履歴を表示するかを決定します。

**ステップ2** シングルシェルフ ノードについてアラーム履歴を表示するには、次の手順を実行します。

- a. ノード ビューで、現在のセッション中に発生したアラームと状態（イベント）を表示するには、**History > Session** タブをクリックします。
- b. **History > Shelf** タブをクリックします。  
**Alarms** チェックボックスをオンにすると、ノードのアラーム履歴が表示されます。**Events** チェックボックスをオンにすると、ノードについてアラームなしおよび一時的なイベントの履歴が表示されます。両方のチェックボックスをオンにした場合、ノードのアラームおよびイベントの履歴が表示できます。
- c. **History > Shelf** タブのすべてのメッセージを表示する場合は、**Retrieve** をクリックします。



**(注)** アラームはいずれかのタブの **Filter** ボタンを使用して表示対象外とした場合は報告されません。詳細については、「[DLP-G126 アラーム フィルタリングのイネーブル化](#)」(p.9-31) を参照してください。



**ヒント** アラーム メッセージに対応しているビューを表示するには、アラーム テーブル内のアラームまたは履歴テーブル内のイベント（状態）メッセージをダブルクリックします。たとえば、カードアラームをダブルクリックすると、カードビューが表示されます。ネットワーク ビューでは、ノードアラームをダブルクリックすると、ノードビューが表示されます。

**ステップ3** マルチシェルフ ノードについてアラーム履歴を表示するには、次の手順を実行します。

- a. マルチシェルフ ビューで、マルチシェルフについて現在のセッション中に発生したアラームと状態（イベント）を表示するには、**History > Session** タブをクリックします。

- b. **History > Node** タブをクリックします。

**Alarms** チェックボックスをオンにすると、マルチシェルフのアラーム履歴が表示されます。**Events** チェックボックスをオンにすると、マルチシェルフについてアラームなしおよび一時的なイベントの履歴が表示されます。両方のチェックボックスをオンにした場合、マルチシェルフのアラームおよびイベントの履歴が表示できます。

- c. **History > Node** タブのすべてのメッセージを表示する場合は、**Retrieve** をクリックします。

**ステップ 4** マルチシェルフ内のシェルフについてノードのアラーム履歴を表示するには、次の手順を実行します。

- a. シェルフ ビューで、シェルフについて現在のセッション中に発生したアラームと状態（イベント）を表示するには、**History > Session** タブをクリックします。

- b. **History > Shelf** タブをクリックします。

**Alarms** チェックボックスをオンにすると、シェルフのアラーム履歴が表示されます。**Events** チェックボックスをオンにすると、シェルフについてアラームなしおよび一時的なイベントの履歴が表示されます。両方のチェックボックスをオンにした場合、シェルフ ノードのアラームおよびイベントの履歴が表示できます。

- c. **History > Shelf** タブのすべてのメッセージを表示する場合は、**Retrieve** をクリックします。

**ステップ 5** ネットワークのアラーム履歴を表示するには、次の手順を実行します。

- a. View メニューから **Go to Network View** を選択します。

- b. **History** タブをクリックします。

現在のセッション中に発生したアラームと状態（イベント）が表示されます。

**ステップ 6** カードのアラーム履歴を表示するには、次の手順を実行します。

- a. View メニューから **Go to Home View** を選択します。

- b. ノードがマルチシェルフの場合は、表示するカードを含むシェルフをダブルクリックします。シングルシェルフの場合は、ステップ c に進みます。

- c. シェルフ図でカードをダブルクリックし、カードレベルのビューを開きます。TCC2/TCC2P カードにはカード ビューがありません。

- d. 現在のセッション中に発生したアラーム メッセージを表示するには、**History > Session** タブをクリックします。

- e. カードのすべてのアラーム メッセージを検索するには、**History > Card** タブをクリックし、**Retrieve** をクリックします。

**Alarms** チェックボックスをオンにすると、ノードのアラーム履歴が表示されます。**Events** チェックボックスをオンにすると、アラームなしおよび一時的なイベントの履歴が表示されます。両方のチェックボックスをオンにした場合、アラームおよびイベント両方の履歴が表示できます。



**(注)** ONS 15454 は、最大で 640 のクリティカルアラームメッセージ、640 のメジャーアラームメッセージ、640 のマイナーアラームメッセージ、および 640 の状態メッセージを保存できます。これらのいずれかの上限值に達すると、ONS 15454 はそのカテゴリの中で最も古いイベントを廃棄します。

発生およびクリアされたアラームメッセージ（および選択した場合はイベント）が表示されます。

ステップ7 元の手順（NTP）に戻ります。

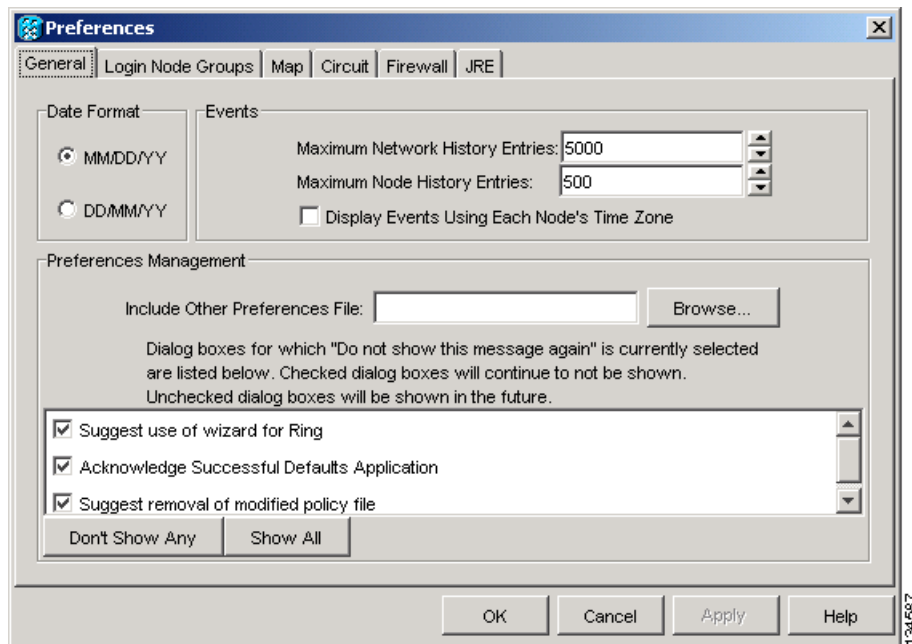
## DLP-G117 アラーム履歴のセッション エントリ最大数の変更

目的	この作業では、アラーム履歴に含まれるセッション エントリの最大数を変更します。将来の参照やトラブルシューティングに備えて情報を保存する目的で履歴リストを拡張するには、この作業を行います。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

ステップ1 CTC Edit メニューから、**Preferences** を選択します。

CTC Preferences ダイアログ ボックスが表示されます (図 9-3)。

図 9-3 CTC Preferences ダイアログ ボックス



ステップ2 エントリを変更するには、Maximum History Entries フィールドの横にある上矢印または下矢印ボタンをクリックします。

ステップ3 Apply をクリックし、OK をクリックします。



(注) Maximum History Entries の値を上限値に設定すると、CTC メモリを多く使用するため、CTC のパフォーマンスが低下する可能性があります。



(注) この作業では、CTC セッションに対して記録された履歴の最大エントリ数を変更します。ネットワーク、ノード、またはカードに対して表示可能な履歴の最大エントリ数には影響しません。

**ステップ 4** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## DLP-G118 時間帯を使用したアラームと状態の表示

目的	この作業では、イベントのタイムスタンプを、アラームの報告元 ONS ノードが位置する時間帯に変更します。デフォルトでは、イベントのタイムスタンプが CTC ワークステーションの属する時間帯に設定されています。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

**ステップ 1** Edit メニューで、**Preferences** を選択します。

CTC Preferences ダイアログ ボックスが表示されます (図 9-3 [p.9-12])。

**ステップ 2** **Display Events Using Each Node's Time Zone** チェックボックスをオンにします。Apply ボタンがイネーブルになります。

**ステップ 3** **Apply** をクリックし、**OK** をクリックします。

**ステップ 4** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## DLP-G119 アラームの同期化

目的	カード、ノード、またはネットワーク レベルでの ONS 15454 のイベントを表示し、新規またはクリアされたアラームおよび状態をチェックできるようにアラームのリストをリフレッシュするには、この作業を行います。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	検索以上のレベル

**ステップ 1** カード、ノード、またはネットワーク ビューで、**Alarms** タブをクリックします。

**ステップ 2** **Synchronize** をクリックします。

このボタンをクリックすると、カード、ノード、またはネットワークの現在のアラームの概要が取得されます。ノードから発生メッセージまたはクリアメッセージが届くと CTC は Alarms ウィンドウを自動的に更新するため、この手順はオプションです。



(注) セッション中に発生したアラームには、Alarms ウィンドウの **New** カラムにチェックマークが付けられます。**Synchronize** をクリックすると、このチェックマークは消えます。

**ステップ 3** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## DLP-G120 状態の表示

目的	カード、ノード、またはネットワーク レベルで状態 (重大度が NR [報告なし] のイベント) を表示するには、この手順を実行します。状態から、アラームには至らなかった変化やイベントの明確な記録が得られません。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	検索以上のレベル

**ステップ 1** カード ビュー、ノード ビュー、またはネットワーク ビューで、**Conditions** タブをクリックします。

**ステップ 2** **Retrieve** をクリックします。

Retrieve ボタンは、ノード、カード、またはネットワークの現在の障害状態のセットを要求します。ノードのイベントに変化があっても、ウィンドウは更新されません。変化を確認するには、Retrieve をクリックする必要があります。

報告されるかどうかに関係なく、ノードで発生したすべての障害状態が表示されます。



(注) 表示対象から除外されている場合は、アラームは報告されません。詳細については、「[DLP-G126 アラーム フィルタリングのイネーブル化](#)」(p.9-31) を参照してください。

重大度がメジャー (MJ)、マイナー (MN)、またはクリティカル (CR) で報告されるイベントはアラームです。アラームなし (NA) として報告されるイベントは状態です。まったく報告されない状態は、Conditions ウィンドウの重大度のカラムで報告なし (NR) とマーク付けされます。

デフォルトの重大度がクリティカル (CR)、メジャー (MJ)、マイナー (MN)、またはアラームなし (NA) であっても、除外や抑制のために報告されない状態は、NR として Conditions ウィンドウに表示されます。



(注) アラームの抑制については、「[DLP-G129 アラーム報告の抑制](#)」(p.9-36) を参照してください。

アラーム プロファイルを使用した場合、そこで選択した重大度を持つ現在の状態が表示されます。アラーム プロファイルについては、「[NTP-G68 アラーム重大度プロファイルの作成、ダウンロード、および割り当て](#)」(p.9-21) を参照してください。



(注) ポートが Out-of-Service and Management, Maintenance (OOS-MA, MT) 状態 (ANSI) または Locked-enabled, maintenance 状態 (ETSI) になると、Alarms Suppressed for Maintenance (AS-MT) 状態が発生します。アラームと状態のトラブルシューティングについては、『*Cisco ONS 15454 DWDM Troubleshooting Guide*』を参照してください。

**ステップ 3** 除外規則を適用する場合は、ノードまたはネットワーク ビューでは **Exclude Same Root Cause** チェックボックスをオンにしますが、カード ビューでは Exclude Same Root Cause チェックボックスをオンにしません。

除外規則では、同じ原因によるすべての下位レベルのアラームまたは状態を排除します。たとえば、光ファイバが切断されると Loss of Signal (LOS; 信号消失) アラーム、Alarm Indication Signal (AIS; アラーム表示信号) 状態、および Signal Failure (SF) 状態が発生します。Exclude Same Root Cause チェックボックスをオンにした場合は、LOS アラームだけが表示されます。Telcordia に従い、除外規則は「ノードからのすべての状態」の照会に適用されます。

**ステップ 4** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## NTP-G65 表示からのクリアされたアラームの削除

目的	クリア済み (C) ステータスのアラームを Alarms ウィンドウから削除したり、一時的なメッセージを CTC History ウィンドウから削除したりするには、この手順を実行します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	第2章「PC との接続と GUI へのログイン」
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	検索以上のレベル

**ステップ 1** 「DLP-G46 CTC へのログイン」(p.2-29) の作業を行います。すでにログインしている場合は、**ステップ 2** に進みます。

**ステップ 2** クリア済みのノードレベルまたはマルチシェルフレベルのアラームを削除するには、次の手順を実行します。

- a. ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはマルチシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) で、**Alarms** タブをクリックします。
- b. **Delete Cleared Alarms** をクリックします。
  - Autodelete Cleared Alarms チェックボックスがオンである場合、アラームはクリアされるとウィンドウに表示されなくなります。
  - Autodelete Cleared Alarms チェックボックスがオンでない場合、アラームはクリアされてもウィンドウに表示されたままになります。アラームはウィンドウにホワイトで表示され、重大度はクリア (CL) としてマーク付けされます。**Delete Cleared Alarms** ボタンをクリックすると、アラームを削除できます。

このアクションにより、クリアされたすべての ONS 15454 アラームが Alarms タブから削除されます。クリアされたアラームの行はホワイトに変わり、ステータス (ST) カラムに C と表示されます。

**ステップ 3** クリア済みのカードレベルのアラームを削除するには、次の手順を実行します。

- a. ノード ビューで、開くカードのグラフィックをダブルクリックします。
- b. **Alarms** タブをクリックし、次に **Delete Cleared Alarms** をクリックします。
  - Autodelete Cleared Alarms チェックボックスがオンである場合、アラームはクリアされるとウィンドウに表示されなくなります。
  - Autodelete Cleared Alarms チェックボックスがオンでない場合、アラームはクリアされてもウィンドウに表示されたままになります。アラームはウィンドウにホワイトで表示され、重大度はクリア (CL) としてマーク付けされます。**Delete Cleared Alarms** ボタンをクリックすると、アラームを削除できます。

**ステップ 4** クリア済みのネットワークレベルのアラームを削除するには、次の手順を実行します。

- a. ノード ビューで **View > Go to Network View** をクリックします。
- b. **Alarms** タブをクリックし、次に **Delete Cleared Alarms** をクリックします。
  - Autodelete Cleared Alarms チェックボックスがオンである場合、アラームはクリアされるとウィンドウに表示されなくなります。



- Autodelete Cleared Alarms チェックボックスがオンでない場合、アラームはクリアされてもウィンドウに表示されたままになります。アラームはウィンドウにホワイトで表示され、重大度はクリア (CL) としてマーク付けされます。**Delete Cleared Alarms** ボタンをクリックすると、アラームを削除できます。

**ステップ 5** History ウィンドウから一時的メッセージを削除するには、**Delete Cleared Alarms** をクリックします。一時的メッセージは単一のメッセージで、発生とクリアのペアにはなっていません（したがって、クリアされたことを示す対になるメッセージもありません）。

終了：この手順は、これで完了です。

---

## NTP-G66 アラームの影響を受ける回線の表示

目的	アラームまたは状態の影響を受ける Optical Channel Network Connection (OCHNC; 光チャネル ネットワーク 接続)、Optical Channel Client Connection (OCHCC; 光チャネル クライアント接続)、Optical Channel Trail、および ONS 15454 回線がある場合、それをすべて表示するにはこの手順を実行します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">NTP-G64 アラーム、履歴、イベント、および状態の表示 (p.9-8)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	検索以上のレベル

**ステップ 1** 「[DLP-G46 CTC へのログイン](#)」(p.2-29) の作業を行います。すでにログインしている場合は、[ステップ 2](#)に進みます。

**ステップ 2** ネットワーク、ノード、またはカード ビューで、**Alarms** タブまたは **Conditions** タブをクリックし、アクティブなアラームまたは状態の行の任意の場所を右クリックします。



(注) ノード ビューがデフォルトですが、ネットワーク ビューまたはカード ビューで Alarms タブにナビゲートしてステップ 2 を実行することもできます。

Select Affected Circuit オプションが、ショートカット メニューに表示されます。

**ステップ 3** **Select Affected Circuits** を左クリックまたは右クリックします。

**Circuits** ウィンドウが表示され、影響を受ける OCHNC、OCHCC、または OCH-Trail が強調表示されます。

終了：この手順は、これで完了です。

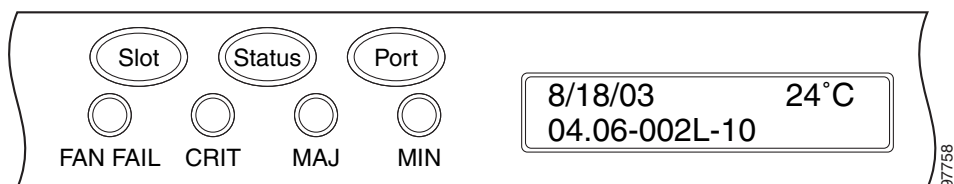
## NTP-G67 ノード、スロット、またはポートの LCD のアラーム カウントの表示

目的	CTC を使用せずにノード、スロット、またはポートのアラームの概要を表示するには、この手順を実行します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	第1章「シェルフおよび共通コントロールカードの取り付け」
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイト
セキュリティ レベル	なし

- ステップ 1** ノードの全体的なアラームの概要を表示する場合は、LCD に [Node] が表示されるまで LCD パネルの **Slot** ボタンまたは **Port** ボタンのいずれかを押します。[Status=Alm Ct] という指示も表示されます。この場合、**ステップ 2** の指示に従ってここで **Status** ボタンを押すと、ノードのアラーム カウントが表示されます。
- ステップ 2** ノードに対するアラームの概要と重大度を表示するには、**Status** ボタンを押します。[Alm Ct: 2: MJ:2 MN:2] のような形式のメッセージが表示されます。これは、2つのクリティカル アラーム、2つのメジャーアラーム、および2つのマイナー アラームがあるという意味です。
- ステップ 3** スロット 3 の OC-3 カードのアラームのように、特定のスロットのアラーム カウントを表示する場合は、LCD に [Slot-3] が表示されるまで **Slot** ボタンを押します。[Status=Alm Ct Sum] という指示も表示されます。
- ステップ 4** スロットに対するアラームの概要と重大度を表示するには、**Status** ボタンを押します。たとえば、[Slot-3 Alm Sum:0 MJ:1 MN:2] のようなメッセージが表示されます。これはスロットに対してクリティカルアラームはなく、メジャーアラームが1つとマイナーアラームが2つあることを意味します。
- ステップ 5** 以前に表示した OC-3 カードの Port 3 のようにカード上のポートに対するアラームを表示する場合は、[Port-3 Status=Alm Ct] が表示されるまで **Port** ボタンを押します。
- ステップ 6** **Status** を押して、ポートに対するアラーム カウントを表示します。[Slot-3 Port-0 Ct:0 MJ:1 MN:0] のようなメッセージが表示されます。このメッセージは、このポートに対して1つのメジャーアラームが存在することを意味しています。

図 9-4 にシェルフの LCD パネルを示します。

図 9-4 シェルフの LCD パネル



Port 画面から前のビューに戻るには、スロット上のすべてのポートの表示が一巡するまで **Port** を押し続けます。

Slot 画面からノードメニューに戻るには、すべてのスロットが一巡するまで **Slot** を押しすと、[Node] が表示されます。

どのボタンも押さなかった場合、LCD はノード名のデフォルトの表示に戻ります。ただし、オプションを一巡してノードステータスに戻らなかった場合は、最後にステータスをチェックしたスロットまたはポートが表示されます。



---

**(注)** Alarm Interface Panel (AIP; アラーム インターフェイス パネル) ボードのヒューズが切れると、LCD の表示はブランクになります。この場合は、Cisco Technical Assistance Center (TAC) に連絡してください。「[マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、およびセキュリティ ガイドライン](#)」(p.xxx) を参照してください。

---

終了：この手順は、これで完了です。

---

## NTP-G68 アラーム重大度プロファイルの作成、ダウンロード、および割り当て

目的	ネットワーク、ノード、またはカード レベルでカスタマイズされたアラーム プロファイルを作成するには、この手順を実行します。この手順では、カスタム重要度を個別にポート、カード、またはノードに割り当てる方法およびアラーム プロファイルを削除する方法について説明します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">第2章「PC との接続と GUI へのログイン」</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

**ステップ 1** アラーム プロファイルを作成するノードで「[DLP-G46 CTC へのログイン](#)」(p.2-29) の手順を実行します。すでにログインしている場合は、**ステップ 2** に進んで、アラーム プロファイルを作成、複製、または修正するか、**ステップ 3** に進んでアラーム プロファイルをダウンロードします。

**ステップ 2** 「[DLP-G121 アラーム重大度プロファイルの新規作成または複製](#)」(p.9-22) を実行します。この作業では、現在のアラーム プロファイルを複製し、プロファイルの名前を変更し、新しいプロファイルをカスタマイズします。

**ステップ 3** 「[DLP-G122 アラーム重大度プロファイルのダウンロード](#)」(p.9-25) を実行します。この作業では、CD またはノードからアラーム重大度プロファイルをダウンロードします。



**(注)** 作成またはダウンロードしたアラーム プロファイルを保存したあと、そのノードに移動して（そのノードにログインするか、またはネットワーク ビューからそのノードをクリックして）アラーム プロファイルをシェルフ、1 つまたは複数のカードかポートに適用してイネーブルにする必要があります。

**ステップ 4** 必要に応じて「[DLP-G123 ポートへのアラーム プロファイルの適用](#)」(p.9-26) または「[DLP-G124 アラーム プロファイルのカードおよびノードへの適用](#)」(p.9-28) の手順を実行します。

**ステップ 5** 必要に応じて「[DLP-G125 アラーム重大度プロファイルの削除](#)」(p.9-29) の作業を行います。

終了：この手順は、これで完了です。

## DLP-G121 アラーム重大度プロファイルの新規作成または複製

目的	この作業では、カスタム重大度プロファイルを作成、またはデフォルトの重大度プロファイルを複製および修正します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

**ステップ 1** CTC ウィンドウの View メニューから、**Go To Network View** を選択します。

**ステップ 2** ネットワーク ビューからアラーム プロファイル エディタにアクセスするには、**Provisioning > Alarm Profiles** タブをクリックします。



(注) ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) からプロファイル エディタにアクセスするには、**Provisioning > Alarm Profiles > Alarm Profile Editor** タブをクリックします。

**ステップ 3** 使用中のデフォルト プロファイルを基に新しいプロファイルを作成する場合は、**New** をクリックします。[ステップ 9](#)に進みます。

**ステップ 4** ノードに設定されている既存のプロファイルを使用してプロファイルを作成する場合は、**Load Profiles** ダイアログ ボックスで **Load** および **From Node** をクリックします。

- a. Node Names リストで、ログイン中のノード名をクリックします。
- b. Profile Names リストで、**Default** などの既存のプロファイル名をクリックします。[ステップ 6](#)に進みます。

**ステップ 5** ローカルまたはネットワーク ドライブに保存されているファイル内の既存のプロファイルを使用してプロファイルを作成する場合は、**Load Profiles** ダイアログ ボックスで **From File** をクリックします。

- a. **Browse** をクリックします。
- b. **Open** ダイアログ ボックスでファイルの保存場所にナビゲートします。
- c. **Open** をクリックします。



(注) クリティカル (CR) またはメジャー (MJ) のデフォルトまたはユーザ定義の重大度の設定は、Telcordia GR-474-CORE の定義に従い、サービスに影響しない (NSA) 状況ではすべてマイナー (MN) に降格されます。

**ステップ 6** **OK** をクリックします。

Alarm Profiles ウィンドウにアラーム重大度プロファイルが表示されます。アラーム プロファイル リストには、混合ノード ネットワークで使用されるアラームのマスター リストが含まれています。これらのアラームの中には、すべての ONS ノードでは使用できないものがあります。

**ステップ7** プロファイルのカラムの任意の場所を右クリックして、プロファイル編集ショートカットメニューを表示します (Default プロファイルの詳細については、[ステップ10](#)を参照してください)。

**ステップ8** ショートカットメニューで **Clone** をクリックします。

**ヒント**

ロードまたは複製に使用可能なものも含めてすべてのプロファイルのリストを表示するには、**Available** をクリックします。プロファイルを複製する前に、そのプロファイルをロードする必要があります。

**ステップ9** New Profile ダイアログ ボックスで、New Profile Name フィールドに名前を入力します。

プロファイル名は一意でなければなりません。別のプロファイルと同じ名前のプロファイルをインポートしたり、指定したりしようとする、CTC は接尾辞を付けて新しい名前を作成します。ロングファイル名もサポートされています。

**ステップ10** **OK** をクリックします。

新しいアラーム プロファイル ([ステップ9](#)で指定) が作成されます (これがインストール中に作成される最初のアラーム プロファイルである場合、デフォルトのアラーム プロファイル設定値が左側の AlarmType::Condition カラムに表示されます)。このプロファイルはデフォルトのプロファイルの重大度を複製したもので、Alarm Profiles ウィンドウの前のプロファイルのカラムの右側に表示されます。このプロファイルを選択して、別の場所にドラッグできます。

**(注)**

2つの予約済みプロファイル (Inherited と Default) も含めて、最大10個のプロファイルを CTC に格納できます。

Default プロファイルでは、重大度を標準 Telcordia GR-474-CORE に設定します。アラームに Inherited プロファイルがある場合は、上位レベルの同じアラームからその重大度を継承 (コピー) します。たとえば、ネットワーク ビューから Inherited プロファイルを選択した場合、下位レベル (ノード、カード、およびポート) の重大度は、この選択内容からコピーされます。Inherited アラーム プロファイルが設定されているカードは、そのカードを含むノードが使用する重大度をコピーします (プロファイルを作成している場合、それらを任意のレベルで別々に適用できます。適用するには、[「DLP-G124 アラーム プロファイルのカードおよびノードへの適用」 \[p.9-28\]](#)を参照してください)。

**ステップ11** 新しいアラーム プロファイルを修正 (カスタマイズ) します。

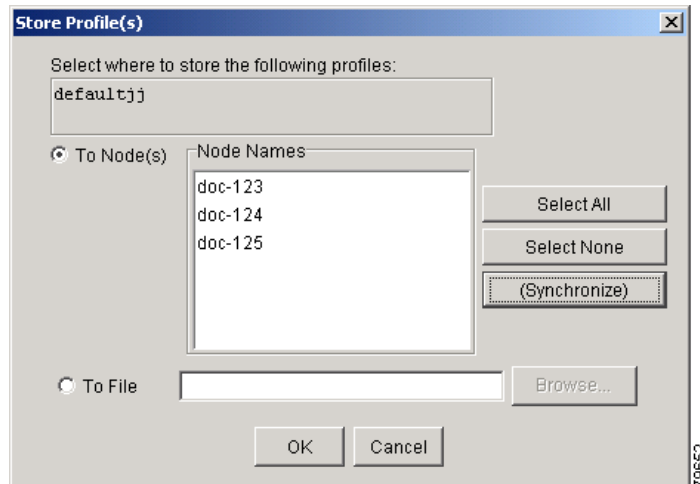
- a. 新しいアラーム プロファイルのカラムで、カスタム プロファイルで変更するアラーム重大度をクリックします。
- b. ドロップダウンリストから重大度を選択します。
- c. カスタマイズする重大度ごとにステップ a と b を繰り返します。変更後にアラームや状態を表示するときは、次のガイドラインを参照してください。
  - クリティカル (CR) またはメジャー (MJ) のデフォルトまたはユーザ定義の重大度の設定は、Telcordia GR-474-CORE の定義に従い、サービスに影響しない (NSA) 状況ではすべてマイナー (MN) に降格されます。
  - 新しいプロファイルを作成して適用するまで、デフォルトの重大度がすべてのアラームおよび状態に使用されます。
  - 重大度を継承 (I) または未設定 (U) に変更しても、アラームの重大度は変化しません。

**ステップ 12** 新しいアラーム プロファイルをカスタマイズしたあと、そのプロファイルのカラムを右クリックして強調表示します。

**ステップ 13** Store をクリックします。

**ステップ 14** Store Profiles ダイアログ ボックス (図 9-5) で、**To Node(s)** をクリックしてステップ a に進むか、**To File** をクリックしてステップ b に進みます。

図 9-5 Store Profiles ダイアログ ボックス



- a. プロファイルを保存するノードを選択します。
  - 1 つのノードにだけプロファイルを保存する場合は、Node Names リストでノードをクリックします。
  - すべてのノードにプロファイルを保存する場合は、**Select All** をクリックします。
  - Ctrl キーを押した状態で、プロファイルを保存するノードを左クリックします。
  - どのノードにもプロファイルを保存しない場合は、**Select None** をクリックします。
  - アラーム プロファイルの情報を更新する場合は、**(Synchronize)** をクリックします。
  - **OK** をクリックしてプロファイルを保存します。
- b. プロファイルを保存します。
  - **Browse** をクリックしてプロファイルの保存先に移動します。
  - File name フィールドに名前を入力します。
  - **Select** をクリックして、この名前と場所を選択します。ロング ファイル名もサポートされています。CTC は \*.pfl という接尾辞を付けてファイルを保存します。
  - **OK** をクリックしてプロファイルを保存します。

**ステップ 15** 必要に応じて次の作業のいずれかを行います。次のオプションは、**Provisioning > Alarm Profile** ウィンドウの下部に配置されています。

- 異なる重大度の行を表示するように Alarm Profiles ウィンドウを設定するには、**Hide Identical Rows** チェックボックスをオンにします。
- Default プロファイルに一致しない重大度を表示するように Alarm Profiles ウィンドウを設定するには、**Hide Reference Values** チェックボックスをオンにします。



- サービスに影響しないマイナー アラームと一部のメジャー アラームを表示しないように Alarm Profiles ウィンドウを設定するには、**Only show service-affecting severities** チェックボックスをオンにします。

**ステップ 16** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## DLP-G122 アラーム重大度プロファイルのダウンロード

目的	この作業では、ネットワークドライブからアクセスできる CD-ROM、フロッピー ディスク、またはハード ディスクから、カスタム アラーム重大度プロファイルをダウンロードします。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



(注)

アラーム プロファイルを編集したら、必ず保存する必要があります。アラーム プロファイルを編集しても保存しなければ、プロファイルに加えた変更は、CTC でビューを変更したときに失われます。

**ステップ 1** ネットワーク ビューからアラーム プロファイル エディタにアクセスするには、**Provisioning > Alarm Profiles** タブをクリックします。



(注)

ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) からプロファイルエディタにアクセスするには、**Provisioning > Alarm Profiles > Alarm Profile Editor** タブをクリックします。

**ステップ 2** **Load** をクリックします。

**ステップ 3** ノードに存在するプロファイルをダウンロードする場合は、Load Profiles ダイアログ ボックスで **From Node** をクリックします。

- Node Names リストで、ログイン中のノード名をクリックします。
- Profile Names リストで、**Default** などのプロファイル名をクリックします。
- [OK] をクリックします。

**ステップ 4** ローカルに、またはネットワーク ドライブに保存されているプロファイルをダウンロードする場合は、Load Profile ダイアログ ボックスで **From File** をクリックします。

- Browse** をクリックします。
- Open** ダイアログ ボックスでファイルの保存場所にナビゲートします。

c. **Open** をクリックします。



(注) クリティカル (CR) またはメジャー (MJ) のデフォルトまたはユーザ定義の重大度の設定は、Telcordia GR-474 の定義に従い、サービスに影響しない (NSA) 状況ではすべてマイナー (MN) に降格されます。

**ステップ 5** [OK] をクリックします。

ダウンロードされたプロファイルは、Alarm Profiles ウィンドウの右側に表示されます。

**ステップ 6** ダウンロードされたプロファイルのカラムの任意の場所を右クリックして、プロファイル編集ショートカットメニューを表示します。

**ステップ 7** **Store** をクリックします。

**ステップ 8** Store Profiles ダイアログ ボックスで、**To Node(s)** をクリックします。

a. プロファイルを保存するノードを選択します。

- 1つのノードにだけプロファイルを保存する場合は、Node Names リストでノードをクリックします。
- すべてのノードにプロファイルを保存する場合は、**Select All** をクリックします。
- Ctrl キーを押した状態で、プロファイルを保存するノードを左クリックします。
- どのノードにもプロファイルを保存しない場合は、**Select None** をクリックします。
- アラーム プロファイルの情報を更新する場合は、**Synchronize** をクリックします。

b. **OK** をクリックします。

**ステップ 9** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## DLP-G123 ポートへのアラーム プロファイルの適用

目的	この作業では、カスタムまたはデフォルトのアラーム重大度プロファイルをポートに適用します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G121 アラーム重大度プロファイルの新規作成または複製 (p.9-22)</a> <a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



(注) 「[DLP-G124 アラーム プロファイルのカードおよびノードへの適用 \(p.9-28\)](#)」の手順を使用しても、アラーム プロファイルをカードに適用できます。

- ステップ 1** ノード ビュー（シングルシェルフ モード）またはシェルフ ビュー（マルチシェルフ モード）で、カード ビューを開くために変更するカードをダブルクリックします。

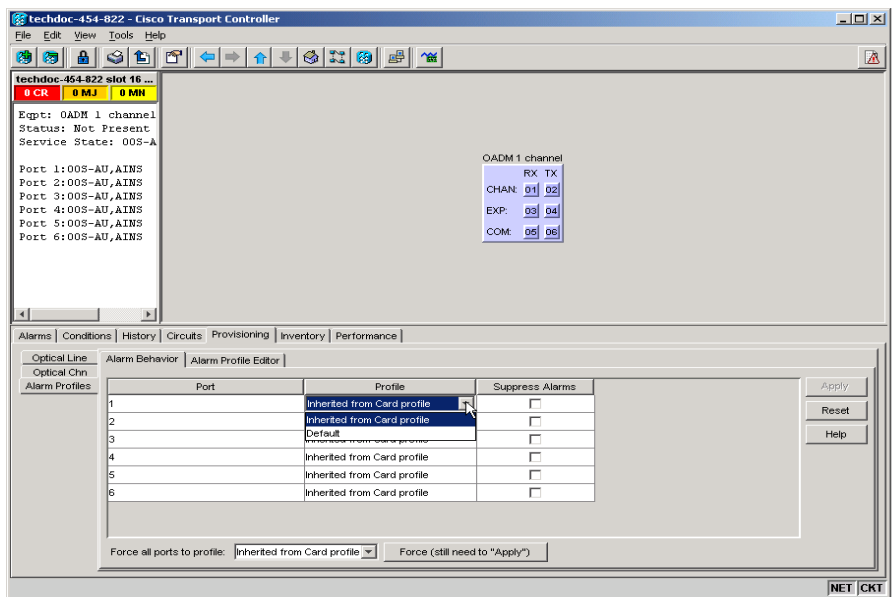


(注) TCC2/TCC2P カードには、カード ビューは使用できません。

- ステップ 2** **Provisioning > Alarm Profiles > Alarm Behavior** タブをクリックします。

図 9-6 に、例として AD-1C カードのアラーム プロファイルを示します。CTC は Parent Card Profile: Inherited を示しています。

図 9-6 AD-1C カード アラーム プロファイル



1 つのポートにプロファイルを適用するには、[ステップ 3](#) に進みます。カード上のすべてのポートにプロファイルを適用するには、[ステップ 4](#) に進みます。

- ステップ 3** ポート単位でプロファイルを適用するには、次の手順を実行します。
- カード ビューで、Profile カラムの対象ポートの行をクリックします。
  - ドロップダウン リストから新しいプロファイルを選択します。
  - Apply** をクリックします。プロファイルがポートに対して正しく更新されたことを確認します。

- ステップ 4** カード上のすべてのポートにプロファイルを適用するには、次の手順を実行します。
- カード ビューで、ウィンドウの下部にある **Force all ports to profile** ドロップダウンの矢印をクリックします。
  - ドロップダウン リストから新しいプロファイルを選択します。
  - Force (still need to "Apply")** をクリックします。
  - Apply** をクリックします。プロファイルがすべてのポートに対して正しく更新されたことを確認します。

ノード ビューの Port Level Profiles カラムに、[exist (1)] のような注記の付いたポートレベルのプロファイルが示されます。

**ステップ 5** 新しいプロファイルを適用したあとで、以前のアラーム プロファイルを再適用するには、そのプロファイルを選択して再び **Apply** をクリックします。

**ステップ 6** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## DLP-G124 アラーム プロファイルのカードおよびノードへの適用

目的	この作業では、カスタムまたはデフォルトのアラーム プロファイルをカードまたはノードに適用します。
ツール / 機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G121 アラーム 重大度プロファイルの新規作成または複製 (p.9-22)</a> <a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須 / 適宜	適宜
オンサイト / リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

**ステップ 1** ノード ビュー (シングルシェルフ モード) またはシェルフ ビュー (マルチシェルフ モード) で、**Provisioning > Alarm Profiles > Alarm Behavior** タブをクリックします。

**ステップ 2** カードにプロファイルを適用するには、次の手順を実行します。

- a. カードの Profile カラムから選択肢をクリックします。
- b. ドロップダウン リストから新しいプロファイルを選択します。
- c. **Apply** をクリックします。

**ステップ 3** ノード全体にプロファイルを適用するには、次の手順を実行します。

- a. ウィンドウの下部にある **Force All Ports to Profile** ドロップダウンの矢印をクリックします。
- b. ドロップダウン リストから新しいアラーム プロファイルを選択します。
- c. **Force (still need to apply)** をクリックします。

**ステップ 4** **Apply** を再びクリックします。

**ステップ 5** 元の手順 (NTP) に戻ります。

## DLP-G125 アラーム重大度プロファイルの削除

目的	この作業では、カスタムまたはデフォルトのアラーム重大度プロファイルを削除します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

- ステップ 1** ネットワーク ビューからアラーム プロファイル エディタにアクセスするには、**Provisioning > Alarm Profiles** タブをクリックします。



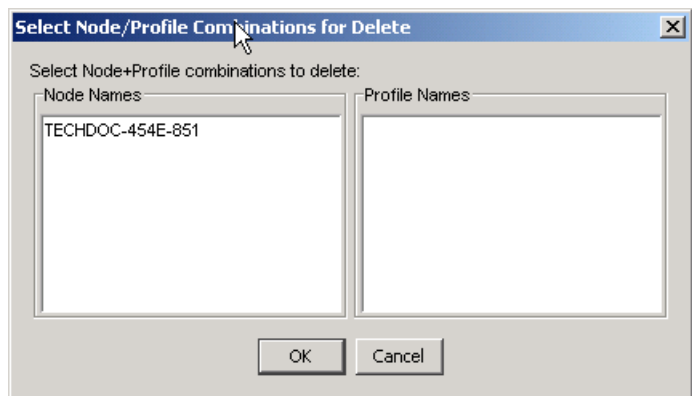
(注) ノード ビューまたはカード ビューからプロファイル エディタにアクセスするには、**Provisioning > Alarm Profiles > Alarm Profile Editor** タブをクリックします。

- ステップ 2** 削除するプロファイルをクリックします (プロファイル名を表示しているカラムをクリックして選択します)。

- ステップ 3** **Delete** をクリックします。

Select Node/Profile Combination for Delete ダイアログ ボックスが表示されます (図 9-7)。

図 9-7 Select Node/Profile Combination for Delete ダイアログ ボックス



(注) Inherited または Default アラーム プロファイルは削除できません。



(注) 以前に作成したアラーム プロファイルは、ノードに保存されていないかぎり削除できません。プロファイルが Alarm Profiles タブに表示されていても、Select Node/Profile Combinations to Delete ダイアログ ボックスにはリストされていない場合は、[ステップ 8](#)に進みます。

**ステップ 4** Node Names リストでノード名をクリックして、プロファイルの場所を強調表示します。



**ヒント** Shift キーを押したままにすると、ノード名を連続して選択できます。Ctrl キーを押したままにすると、ノードの任意の組み合わせを選択できます。

**ステップ 5** Profile Names リストで削除するプロファイル名をクリックします。

**ステップ 6** [OK] をクリックします。

**ステップ 7** Delete Alarm Profile ダイアログ ボックスで **Yes** をクリックします。

ノードからプロファイルを削除しても、次の手順を実行して削除しないかぎり、ネットワークビューの Provisioning > Alarm Profile Editor ウィンドウでは表示されたままになります。

**ステップ 8** このウィンドウからアラーム プロファイルを削除するには、削除したプロファイルのカラムを右クリックし、ショートカットメニューから **Remove** を選択します。

選択されたノードとプロファイルの組み合わせが存在しない場合、[One or more of the profiles selected do not exist on one or more of the node(s) selected.] という警告が表示されます。たとえば、ノード A にはプロファイル 1 しか保存されていないにもかかわらず、ユーザがノード A からプロファイル 1 とプロファイル 2 の両方を削除しようとする、この警告メッセージが表示されます。ただし、この操作により、プロファイル 1 はノード A から削除されます。

Default および Inherited の特殊なプロファイルは削除することはできず、Select Node/Profile Combination for Delete ウィンドウにも表示されません。

**ステップ 9** 元の手順 (NTP) に戻ります。

---

## NTP-G69 アラーム重大度フィルタリングのイネーブル化、変更、またはディセーブル化

目的	すべてのネットワーク ノードの Alarms、Conditions、および History の各ウィンドウにある 1 つまたは複数の重大度に対して、アラームのフィルタリングを開始、変更、または停止するには、この手順を実行します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	第2章「PC との接続と GUI へのログイン」
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	検索以上のレベル

- 
- ステップ 1** アラーム重大度フィルタリングをイネーブルにするノードで、「[DLP-G46 CTC へのログイン](#)」(p.2-29) の手順を実行します。すでにログインしている場合は、[ステップ 2](#) に進みます。
- ステップ 2** 必要に応じて「[DLP-G126 アラーム フィルタリングのイネーブル化](#)」(p.9-31) の作業を行います。この作業では、ネットワーク内のすべてのノードのカード、ノード、およびネットワーク ビューでアラーム フィルタリングをイネーブルにします。アラーム フィルタリングは、アラーム、状態、またはイベントに対してイネーブルにできます。
- ステップ 3** 必要に応じて「[DLP-G127 アラーム、状態、および履歴フィルタリングのパラメータの修正](#)」(p.9-32) の手順を実行し、ネットワーク ノードのアラーム フィルタリングを変更して、特定のアラームまたは状態を表示または非表示にします。
- ステップ 4** 必要に応じて「[DLP-G128 アラーム フィルタリングのディセーブル化](#)」(p.9-34) の手順を実行し、すべてのネットワーク ノードのアラーム プロファイル フィルタリングをディセーブルにします。
- 終了：この手順は、これで完了です。
- 

## DLP-G126 アラーム フィルタリングのイネーブル化

目的	この作業では、すべてのネットワーク ノードのアラーム、状態、またはイベント履歴のアラーム フィルタリングをイネーブルにします。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン</a> (p.2-29)
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	検索以上のレベル

- 
- ステップ 1** ノード、ネットワーク、またはカード ビューで、**Alarms** タブをクリックします。
- ステップ 2** 下部のツールバーの右側にある **Filter** ツール アイコンをクリックします。



(注) Filter ツールアイコンは、画面の左下にある Filter ボタンとは異なります。

このツールが選択されている場合は、アラーム フィルタリングがイネーブルになります。このツールが選択されていない場合は、アラーム フィルタはディセーブルです。

アラーム フィルタリングは、ネットワーク内のすべてのノードについて、同じウィンドウのカード、ノード、およびネットワーク ビューでイネーブルになります。たとえば、ノード ビューの Alarms ウィンドウで Filter ツールをイネーブルにすると、ネットワーク ビューおよびカード ビューの Alarms ウィンドウでも Filter ツールはイネーブルになります。

- ステップ 3** 状態を表示するときにアラーム フィルタリングをイネーブルにする場合は、Conditions ウィンドウでステップ 1 と 2 を繰り返してください。
- ステップ 4** アラーム履歴を表示するときにアラーム フィルタリングをイネーブルにする場合は、History ウィンドウでステップ 1 と 2 を繰り返してください。
- ステップ 5** 元の手順 (NTP) に戻ります。

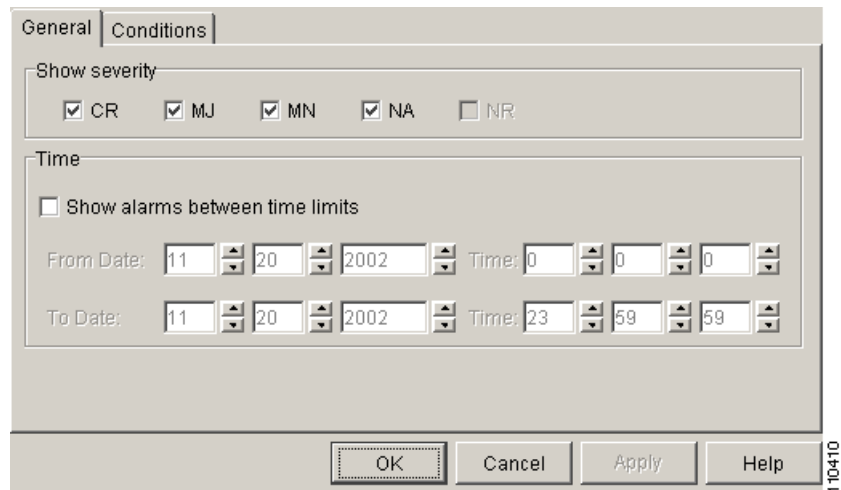
## DLP-G127 アラーム、状態、および履歴フィルタリングのパラメータの修正

目的	この作業では、すべてのネットワーク ノードにおけるアラームおよび状態のレポートを変更します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G126 アラーム フィルタリングのイネーブル化 (p.9-31)</a> <a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	検索以上のレベル

- ステップ 1** ノード、ネットワーク、またはカード ビューで、Alarms タブ、Conditions タブ、または History タブをクリックします。
- ステップ 2** 下部のツールバーの左にある Filter ボタンをクリックします。
- フィルタのダイアログ ボックスの General タブが表示されます。図 9-8 に、Alarm Filter ダイアログ ボックスを示します。Conditions タブおよび History タブも同様のダイアログ ボックスです。



図 9-8 Alarm Filter ダイアログ ボックスの General タブ



General タブの Show severity 領域では、アラーム フィルタにかけて表示するアラーム重大度と、フィルタを通過したアラームの表示期間をプロビジョニングできます。フィルタで表示されるアラーム重大度を変更するには、[ステップ 3](#)に進みます。アラームの表示期間を変更するには、[ステップ 4](#)に進みます。

- ステップ 3** Show severity 領域では、ネットワーク レベルでレポートする重大度（クリティカル [CR]、メジャー [MJ]、マイナー [MN]、またはアラームなし [NA]）のチェックボックスをオンにします。重大度を表示しない場合は、重大度チェックボックスの選択を解除（オフに）します。

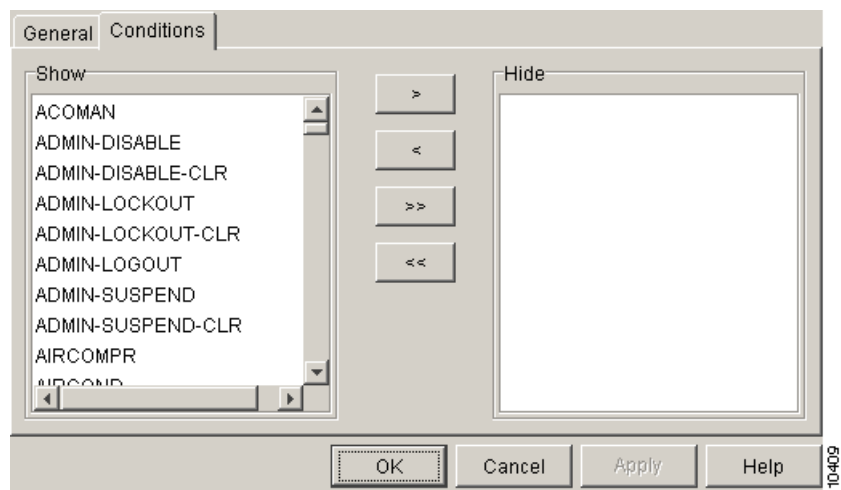
アラーム フィルタがディセーブルになっている場合は、すべてのアラームが表示されます。

- ステップ 4** Time 領域では、**Show alarms between time limits** チェックボックスをオンにして、イネーブルにします。From Date、To Date、および Time の各フィールドの上下矢印をクリックして、アラームが表示される期間を変更します。

条件のフィルタ パラメータを変更するには、[ステップ 5](#)に進みます。変更の必要がない場合は、[ステップ 6](#)に進みます。

- ステップ 5** フィルタのダイアログ ボックスの **Conditions** タブをクリックします ([図 9-9](#))。

図 9-9 Alarm Filter ダイアログ ボックスの Conditions タブ



フィルタリングがイネーブルになっているときは、Show リスト内の状態が表示され、Hide リスト内の状態は表示されません。

- Show リストから Hide リストに状態を個別に移動するには、> ボタンをクリックします。
- Hide リストから Show リストに状態を個別に移動するには、< ボタンをクリックします。
- Show リストから Hide リストに状態をまとめて移動するには、>> ボタンをクリックします。
- Hide リストから Show リストに状態をまとめて移動するには、<< ボタンをクリックします。



(注) 状態にはアラームも含まれます。

**ステップ6** Apply および OK をクリックします。

アラームと状態のフィルタリング パラメータは、アラーム フィルタリングがイネーブルになると強制的に適用され（「DLP-G126 アラーム フィルタリングのイネーブル化」 [p.9-31] を参照）、アラーム フィルタリングがディセーブルになると解除されます（「DLP-G128 アラーム フィルタリングのディセーブル化」 [p.9-34] を参照）。

**ステップ7** 元の手順（NTP）に戻ります。

## DLP-G128 アラーム フィルタリングのディセーブル化

目的	この作業では、すべての重大度が CTC で報告されるように、すべてのネットワーク ノードの特殊なアラーム フィルタリングをディセーブルにします。
ツール/機器	なし
事前準備手順	DLP-G126 アラーム フィルタリングのイネーブル化 (p.9-31) DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	検索以上のレベル

**ステップ1** ノード、ネットワーク、またはカード ビューで、**Alarms** タブをクリックします。

**ステップ2** 下部のツールバーの右側にある **Filter** ツールアイコンをクリックします。



(注) Filter ツールアイコンは、画面の左下にある Filter ボタンとは異なります。

ツールがインデントされて表示される場合（フィルタ アイコンがブルーの場合）、アラーム フィルタリングはイネーブルになり、ツールがインデントされて表示されない場合（選択されておらず、フィルタ アイコンがホワイトの場合）は、ディセーブルになります。

- ステップ 3** 状態の表示の際にアラーム フィルタリングをディセーブルにする場合は、**Conditions** タブをクリックして、**Filter** ツールをクリックします。
- ステップ 4** アラーム履歴の表示の際にアラーム フィルタリングをディセーブルにする場合は、**History** タブをクリックして、**Filter** ツールをクリックします。
- ステップ 5** 元の手順（NTP）に戻ります。
-

## NTP-G70 アラームの抑制またはアラーム抑制の中止

目的	アラームまたは状態の存在が判明しているが、Alarms または History 画面には表示しない場合に、ポート、カード、またはノードに対するアラームが報告されないようにするには、この手順を実行します。また、抑制を中断することによってアラームの報告を通常どおり再開する方法についても説明します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<a href="#">第2章「PC との接続と GUI へのログイン」</a>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル

**ステップ 1** [「DLP-G46 CTC へのログイン」 \(p.2-29\)](#) の作業を行います。すでにログインしている場合は、[ステップ 2](#) に進みます。

**ステップ 2** ノードで発生した特定のアラームをクリアし、Conditions ウィンドウに抑制されたアラームを表示する自律メッセージを送信できるようにするには、[「DLP-G129 アラーム報告の抑制」 \(p.9-36\)](#) の手順を実行します。

1 つまたは複数のアラームを抑制すると、それらのアラームは Alarm または History ウィンドウ、あるいはその他のクライアントに表示されません。抑制コマンドを実行すると、アラームが Conditions ウィンドウに重大度、重大度色分け、およびサービスに影響するステータスとともに表示されます。

**ステップ 3** アラームの抑制を中止し、通常のアラーム報告を再開するには、[「DLP-G130 アラーム抑制の中止」 \(p.9-38\)](#) の手順を実行します。

終了：この手順は、これで完了です。

## DLP-G129 アラーム報告の抑制

目的	この作業では、ノード、カード、またはポート レベルでの ONS 15454 アラームの報告を抑制します。
ツール/機器	なし
事前準備手順	<a href="#">DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)</a>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



### 注意

複数の CTC/TL1 セッションが開かれている場合、1 つのセッションのアラームを抑制すると、その他のすべてのセッションのアラームも抑制されます。



(注)

ノードレベルでのアラーム抑制よりも、カードまたはポートレベルでのアラーム抑制の方が優先されます。抑制は、3つのエンティティすべてについて独立して設定できます。各エンティティでユーザコマンド (AS-CMD) アラームによって抑制されたアラームが個別に発生します。

**ステップ 1** ノードビューの場合は、**Provisioning > Alarm Profiles > Alarm Behavior** タブをクリックします。

**ステップ 2** ノード全体のアラームを抑制するには、次の手順を実行します。

- a. **Suppress Alarms** チェックボックスをオンにします。
- b. **Apply** をクリックします。

Alarms ウィンドウでノードに対して発生したすべてのアラームの色がホワイトに変わり、ステータスがクリア済みになります。アラームを抑制したあと、Alarms ウィンドウで **Synchronize** をクリックすると、ウィンドウからクリア済みのアラームが削除されます。ただし、ノードまたはカードビューでは AS-CMD アラームはノードレベルのアラームが抑制されたことを示します。Object カラムに System という文字が表示されます。



(注)

Building Integrated Timing Supply (BITS; ビル内統合タイミング供給源)、電源、またはシステムアラームを抑制するには、ノード全体のアラームを抑制するしかありません。個別に抑制することはできません。

**ステップ 3** 個々のカードのアラームを抑制するには、次の手順を実行します。

- a. Alarm Behavior ウィンドウで、カードの行を特定します (スロット番号の Location カラムまたは装置名の Eqpt Type カラムを使用)。
- b. その行で **Suppress Alarms** カラムのチェックボックスをオンにします。

このカードに直接適用されるアラームの表示が、**ステップ 2** で説明したように変わります。たとえば、スロット 16 の OC-48 カードに対して発生したアラームを抑制した場合、このカードで発生したアラームは、ノードまたはカードビューで変化します。AS-CMD アラームは、Object 番号にスロット番号を表示します。たとえば、スロット 16 の OC-48 カードのアラームを抑制した場合、AS-CMD オブジェクトは [SLOT-16] になります。

**Apply** をクリックします。

**ステップ 4** 個々のカードポートのアラームを抑制するには、ノードビューでカードをダブルクリックします。

**ステップ 5** **Provisioning > Alarm Profiles > Alarm Behavior** タブをクリックします。

**ステップ 6** アラームを抑制するポートの行の **Suppress Alarms** カラムのチェックボックスをオンにします (図 9-6 [p.9-27])。

**ステップ 7** **Apply** をクリックします。

このポートに直接適用されるアラームの表示が、**ステップ 2** で説明したように変わります (ただし、カード全体で発生したアラームは表示されたままです)。ポートをオブジェクトとして表示する AS-CMD アラームは、どちらのアラームウィンドウにも表示されます。たとえば、スロット 16 の OC-48 カードのポート 1 のアラームを抑制した場合、アラームオブジェクトには [FAC-16-1] と表示されます。

**ステップ 8** 元の手順（NTP）に戻ります。

## DLP-G130 アラーム抑制の中止

目的	この作業では、アラームの抑制を中止し、ポート、カード、またはノードでのアラームの報告を再びイネーブルにします。
ツール/機器	なし
事前準備手順	DLP-G129 アラーム報告の抑制 (p.9-36) DLP-G46 CTC へのログイン (p.2-29)
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



### 注意

複数の CTC セッションが開かれている場合、1 つのセッションのアラームの抑制を中止すると、その他のすべてのセッションのアラームの抑制も中止されます。

**ステップ 1** ノード全体のアラームの抑制を中止するには、次の手順を実行します。

- a. ノードビューで、**Provisioning > Alarm Profiles > Alarm Behavior** タブをクリックします。
- b. **Suppress Alarms** チェックボックスをオフにします。

抑制されていたアラームが、Alarms ウィンドウに再び表示されます（これらのアラームは Synchronize ボタンによってウィンドウからクリアされていた可能性があります）。System オブジェクトを表示した AS-CMD アラームは、すべてのビューからクリアされます。

**ステップ 2** 個々のカードに対してアラーム抑制を中止するには、次の手順を実行します。

- a. ノードビューで、**Provisioning > Alarm Profiles > Alarm Behavior** タブをクリックします。
- b. スロットリストで、抑制されていたカードを特定します。
- c. そのスロットの **Suppress Alarms** カラムのチェックボックスをオフにします。
- d. **Apply** をクリックします。

抑制されていたアラームが、Alarms ウィンドウに再び表示されます（これらのアラームは Synchronize ボタンによってウィンドウからクリアされていた可能性があります）。スロットオブジェクト（SLOT-16 など）を表示した AS-CMD アラームは、すべてのビューからクリアされます。

**ステップ 3** ポートのアラームの抑制を中止するには、**Provisioning > Alarm Profiles > Alarm Behavior** タブをクリックします。

**ステップ 4** 抑制を中止するポートの **Suppress Alarms** チェックボックスをオフにします。

**ステップ 5** **Apply** をクリックします。

抑制されていたアラームが、Alarms ウィンドウに再び表示されます（これらのアラームは Synchronize ボタンによってウィンドウからクリアされていた可能性があります）。ポートオブジェクト（FAC-16-1 など）を表示した AS-CMD アラームは、すべてのビューからクリアされます。

**ステップ 6** 元の手順（NTP）に戻ります。

---

## NTP-G72 AIC-I カードの外部アラームおよび外部制御のプロビジョニング

目的	AIC-I カードの外部（環境）アラームおよび外部制御を作成するには、この手順を実行します。
ツール/機器	AIC-I カードはスロット 9 に取り付ける必要があります。
事前準備手順	<a href="#">DLP-G34 AIC-I カードの取り付け (p.1-87)</a>
必須/適宜	適宜
オンサイト/リモート	オンサイトまたはリモート
セキュリティ レベル	プロビジョニング以上のレベル



(注)

ONS 15454 ANSI シェルフでは、AIC-I カード アラームに、バックプレーンを通してシェルフの背面からアクセスできるワイヤラップ ピンに配線された直接のアラーム接点（外部アラーム入力および外部制御出力）があります。Alarm Expansion Panel (AEP; アラーム拡張パネル) を取り付ける場合は、AIC-I アラーム接点は使用できません。AEP アラーム接点だけが使用可能になります。AEP の詳細については、「[NTP-G9 AEP の取り付け \(ANSI のみ\) \(p.1-51\)](#)」と「[NTP-G11 AEP への外部ワイヤラップ パネルの取り付け \(ANSI のみ\) \(p.1-66\)](#)」を参照してください。ONS 15454 ETSI シェルフは AEP と互換性がありません。



(注)

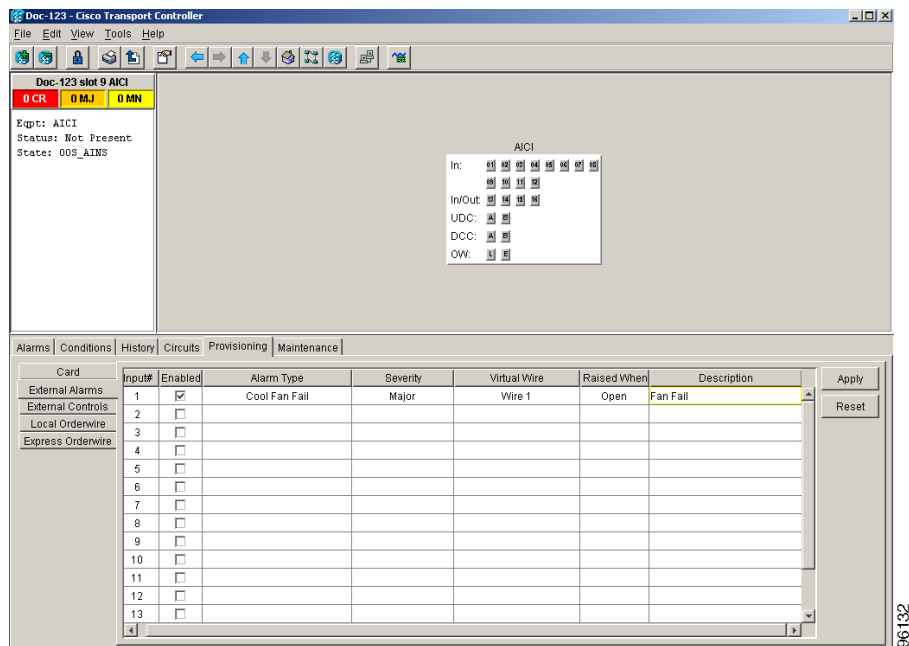
AIC-I の外部アラーム、外部制御、および仮想ワイヤの詳細については、『Cisco ONS 15454 DWDM Reference Manual』の「Alarm and TCA Monitoring and Management」の章を参照してください。

- ステップ 1** ONS 15454 ANSI シェルフを使用している場合は、バックプレーンの配線を確認します。AEP を使用している場合は、「[NTP-G9 AEP の取り付け \(ANSI のみ\) \(p.1-51\)](#)」を参照してください。それ以外の場合は、ONS 15454 バックプレーン ピンについて「[NTP-G10 アラーム、タイミング、LAN、およびクラフト ピン接続のための配線 \(p.1-54\)](#)」を参照してください。
- 外部アラームについては、外部デバイスのリレーが ENVIR ALARMS IN バックプレーン ピンに配線されていることを確認してください。
  - 外部制御については、外部デバイスのリレーが ENVIR ALARMS OUT バックプレーン ピンに配線されていることを確認してください。
- ステップ 2** ONS 15454 ETSI シェルフを使用している場合は、アラーム接点の配線を確認します。ONS 15454 SDH の接点については、「[NTP-G10 アラーム、タイミング、LAN、およびクラフト ピン接続のための配線 \(p.1-54\)](#)」を参照してください。
- 外部アラームについては、外部デバイス リレー が ENVIR ALARMS IN コネクタ ピンに配線されていることを確認してください。
  - 外部制御については、外部デバイス リレー が ENVIR ALARMS OUT コネクタ ピンに配線されていることを確認してください。
- ステップ 3** 「[DLP-G46 CTC へのログイン \(p.2-29\)](#)」の作業を行います。すでにログインしている場合は、**ステップ 4**に進みます。



- ステップ4** ノードまたはシェルフビューで、シェルフ図の AIC-I カードをダブルクリックします。カードビューが表示されます。
- ステップ5** **Provisioning > Card** タブをクリックします。
- ステップ6** Alarm Contacts 領域で、AEP を使用している場合は **Add Extension** オプション ボタンをクリックします。このオプションのクリック後に、外部アラーム入力/出力タイプおよび AEP 拡張タイプを選択します。16 の外部アラーム接点にアクセスできるようになります。
- ステップ7** Add Extension をクリックしなかった場合は、Input/Output 領域で External Alarm または External Control を選択します (External Alarm を選択すると、**ステップ6** の入力/出力オプションが制限されます)。External Control を選択すると、外部アラームと外部制御の両方がイネーブルになります。これにより外部アラーム接点のうちの4個が外部制御に変換され、残りの12個を外部制御接点として使用できます。両方のオプションの拡張タイプは AEP です。
- ステップ8** 外部アラームをプロビジョニングしている場合は、**External Alarms** タブをクリックします (図 9-10)。外部アラームをプロビジョニングしていない場合は、**ステップ9～11** は省略して**ステップ12**に進みます。

図 9-10 AIC-I カードでの外部アラームのプロビジョニング



**ステップ9** 外部アラームについては、次のフィールドを設定します。

- **Enabled** — アラーム入力番号の各フィールドをイネーブルにするには、このチェックボックスをオンにします。
- **Alarm Type** — ドロップダウン リストからアラーム タイプを選択します。
- **Severity** — ドロップダウン リストから重大度を選択します。

重大度は、Alarms および History タブのアラームの重大度を決定し、LED をイネーブルにするかどうかを決定します。クリティカル (CR)、メジャー (MJ)、およびマイナー (MN) アラームは、LED をイネーブルにします。アラームなし (NA) および報告なし (NR) イベントは LED をイネーブルにしません、CTC の情報を報告します。

- **Virtual Wire** — 外部デバイスを仮想ワイヤに割り当てる場合は、ドロップダウン リストから仮想ワイヤ番号を選択します。それ以外の場合は、デフォルト値の None を変更しないでください。
- **Raised When** — ドロップダウン リストから、アラームをトリガーする接点条件 (オープンまたはクローズ) を選択します。
- **Description** — デフォルトの説明が表示されます。必要があれば、別の説明を入力します (セルをダブルクリックしてテキストを強調表示し、変更します)。

**ステップ 10** 追加のデバイスをプロビジョニングするには、追加のデバイスごとに **ステップ 9** を実行します。

**ステップ 11** **Apply** をクリックします。

外部アラームをプロビジョニングすると、アラーム オブジェクトは ENV-IN-*nn* となります。変数 *nn* は、割り当てる名前に関係なく、外部アラームの数を指します。

**ステップ 12** 外部制御については、**External Controls** タブをクリックし、ONS 15454 バックプレーン (ANSI) または FMEC コネクタ ピン (ETSI) に接続されている制御ごとに次のフィールドに入力します。

- **Enabled** — アラーム入力番号の各フィールドをイネーブルにするには、このチェックボックスをオンにします。
- **Control Type** — ドロップダウン リストから制御のタイプを選択します (エアコン、エンジン、ファン、発電機、熱、光、スプリンクラー、その他)。
- **Trigger Type** — トリガーのタイプを選択します (ローカルのマイナー、メジャー、またはクリティカルアラーム、リモートのマイナー、メジャー、またはクリティカルアラーム、または仮想ワイヤのアクティブ化)。
- **Description** — 説明を入力します (セルをダブルクリックしてテキストを強調表示し、変更します)。

**ステップ 13** 追加の外部制御をプロビジョニングするには、各デバイスに対して **ステップ 12** を実行してください。

**ステップ 14** **Apply** をクリックします。



(注) 外部アラームと外部制御は、ローカルの Network Element (NE; ネットワーク要素) に記録してください。アラームの名前と解決はノード固有です。

終了：この手順は、これで完了です。